

(別紙1) 令和2年度 夢但馬応援事業 実施報告書

<事業名>

団体名	特定非営利活動法人がっせえアート
所在地	養父市八鹿町
代表者名	茨木 やよい

事業内容	<p>1. 月1回運営委員会を開催し、また事業ごとに専門部会を設け、事業の計画と実施について検討した</p> <p>2. 令和2年10月25日～11月1日、豊岡市交流センター「豊岡稽古堂」にて、応募作品全点展示の第11回がっせえアート展を開催した。オープニングイベントをやめ、体温測定や手指消毒、出入口を1カ所に絞る、マスクのない来場者にマスクを提供するなどのコロナ感染防止対策を行った。</p> <p>3. がっせえアート展の図録を製作し、出展者全員に無料配布した。図録用の作品撮影は協賛企業である北星社のスタジオと機材を無償で借用し、ボランティアメンバーで行った。</p> <p>4. がっせえアート賞及び各賞を選定し、表彰式を開催した。今回、共催先である豊岡市にも豊岡市長賞の表彰を依頼し、市長自ら作品を選定にされ、表彰式にも出席された。また、第1回からのチャリティー展協力者である染色家の堤木象氏にも特別賞を依頼し「よいしょこら賞」が実現した。</p>	
地域	但馬全域及び関西圏	
事業の効果	<p>①団体（組織）内の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がっせえアート展は本展部会の取り組みであったが、部会の垣根を越えてメンバーが参加した。 <p>②地域への効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10年を目標に活動を続けてきたが、早い段階に豊岡市から開催の要請があり、但馬全域の障害者福祉施設から問い合わせがあるなど、展覧会が必要とされ、定着してきたのを感じる。 ・コロナ禍で学生のボランティア参加はなかったが、八鹿病院看護専門学校の先生や豊岡市職員、福祉施設職員などの応援があった。 ・来場者数が過去最高の1,112人となり、多くの手ごたえがあった。 	
事業経過	年 月 日 令和2年 4月1日～ 6月12日～ 6月21日 7月3日 7月31日 8月7日 8月19日 8月22日 9月4日 9月19日 9月26-28日 10月2日 10月24日 10月25日- 11月1日 11月4日 11月14日	<p>第11回がっせえアート展応募書類発送</p> <p>第1回運営委員会 オンサルデ/養父市</p> <p>展覧会用ボードと金具の確認作業 参加者6人 ペア/養父市</p> <p>第2回運営委員会 参加者6人 オンサルデ/養父市</p> <p>がっせえアート展応募締切</p> <p>第3回運営委員会 参加者6人 オンサルデ/養父市</p> <p>がっせえアート展用ボード補修作業 ペア/養父市</p> <p>図録用応募作品撮影 北星社/豊岡市</p> <p>第4回運営委員会</p> <p>がっせえアート展用ボードペンキ塗り 参加者8人 ペア/養父市</p> <p>がっせえアート展案内DM発送 参加者9人 オンサルデ/養父市</p> <p>第5回運営委員会 参加者5人 オンサルデ/養父市</p> <p>がっせえアート展設営 参加者30人 豊岡稽古堂</p> <p>第11回がっせえアート展 参加者60人 来場者1112人 豊岡稽古堂</p> <p>第6回運営委員会 参加者5人 オンサルデ/養父市</p> <p>がっせえアート展表彰式 参加者9人 来場者22人 豊岡稽古堂</p>

協働の相手方	社会福祉法人さつき福祉会 社会福祉法人とよおか福祉会 出石精和園 特定非営利活動法人セルフサポートいずし 認定 NPO 法人はばたけ手をつなぐ育成会 特定非営利活動法人日高共同作業所
今後の課題等	<p>〈事業を実施する上での課題〉</p> <p>①団体（組織）の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の中心的メンバーが高齢化している ・後継者が育っていない ・事務局に負担が集中している <p>②地域の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係者の関心は高いが、地域全体での盛り上がりには欠けている気がする ・創作活動や表現に関する知識が支援者にはない <p>〈令和3年度以降の事業計画〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がっせえ水族館展 令和3年1月 ・第12回がっせえアート展 令和3年10～11月 ・がっせえアート美術クラブ展 未定



R2年9月19日 ボードペンキ塗り



R2年8月22日 図録用撮影



R2年10月28日 第11回がっせえアート展



R2年11月14日 表彰式